

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2017年1月27日

[テーマ] 帰宅途中の失敗—親切な駅員に感謝—

普段からうっかりの多い私ではあるが、その私にしてもこんな失敗は久しぶり。東京での用事を終えて前橋に戻る途中、荷物の一部を網棚の上に残したまま、電車を降りてしまったのである。

東京・日本橋の本店で開かれる支店長会議に出席した後、育児休業を終えてこの1月から東京の職場と前橋の自宅との間を通勤している妻、そして会議期間中は妻の実家で過ごしていた2人の息子と合流して、前橋へ戻ってくるという流れであった。ようやく戻れるということで、新幹線の中では、東京駅で買った弁当を妻と頬張ったり、はしゃぐ息子たちを連れて他の車両を探検したりして、気がすっかり緩んでしまっていた。

4月に正式開館する高崎市の新体育館「高崎アリーナ」が見えてきたところで乗り換えの準備。息子たちの相手をしている妻から彼女のかばんを預かった。高崎駅での乗り換えはスムーズで、無事、予定の両毛線に乗り込むことができた。ところが、乗り込んだ車両が混んでいて座ることができない。

そこで持っていたかばんを網棚の上に置いたのが大きな間違いであった。前橋駅で降りて自宅へ向かい、いよいよドアツードアで1時間半の移動が終わるといふ、そのタイミングで家の鍵を入れていた妻のかばんが手元にないことに気付いた。

電車を降りたのが午後6時12分。忘れ物に気付いて慌てて前橋駅へ戻り、JRの駅員さんに事情を説明したのが6時38分。そこでその若い駅員さんが取ってくれた対応が素晴らしい。他の乗降客への対応をしっかりこなした上で、「この後電車は46分に桐生駅に着きますので、そこで網棚の上を確認してみましょう」と、桐生駅の駅員さんに即座に連絡してくださった。

かばんが見つかったとの連絡を桐生駅から受けるまでの20分間、私は気が気でなかった。家の鍵は予備がもう一つあるが、かばんは妻のお気に入りだったし、その中には子どもたちの健康保険証、母子手帳などのほか、翌日妻が職場に出勤するために必要な物も入っている。見つからなかった時にどうするか、そのことで頭がいっぱいとなった。

「良かったですね、荷物は無事でしたよ」と声を掛けられてホッとした私は、お礼を言って、すぐさまかばんを取りに桐生駅へ向かった。最終的に家にたどり着いた時間は前橋—東京間をもう一度往復したくらいになってしまったが、無事翌日を迎えられるのだから、良しとすべきだろう。

実にしっかりした、親切な駅員さんだった。日付が変わろうとしている頃、一日を振り返りながら眠りにつこうとしたところで、もう一つの失敗、駅員さんのお名前をお聞きしていなかったことに気付いた。せめてこの場で今一度お礼を申し上げておきたいと思う。

〔 日本銀行前橋支店長
 神山 一成 〕